

令和5年度 子ども園自己評価

幼保連携型認定こども園
千里山やまて学園

内容	状況・振り返り
保育内容について	昨年に引き続き「体づくり」を目標とし乳児から幼児へとつなげていけるように教育保育をすすめてきました。年齢ごとに保育室作りも工夫しながら、子どもの成長に合わせた環境作りを整えて実践しました。
行事について	伝承的な行事や季節の行事など絵本やペープサートなどの教材を使いながらわかり易く伝えるようにした。同じことを続けることで理解につながられるようにした。
保健・安全指導について	避難訓練では、シチュエーションを変えながら実施。非常事態にそなえて、日頃から職員の声に注目することの必要性を伝えた。お散歩マップを使い、園外の安全を確認しながら園外保育を行う。
食事提供について	旬の食材を取り入れながら、日頃食べ慣れないものを口にし、味や食材名を知ることによって食の幅を広げた。3色食品群についてもカードを使いながら、子どもが理解しやすいように工夫した。
地域貢献について	地域子育て支援（なかよし広場あそぼう Kai）や地区福祉委員が実施する子育てサロンに参加し、地域の親子の子育て支援を実施する 施設見学を通して、子育て相談を行う。
研修・研究について	園内研修、園外研修に積極的に参加できた。 キャリアアップ研修など個々のスキルに必要な研修を受けることが出来た。

総評

今年度は、ほぼ予定通り行事や教育保育を実施できたが感染症の流行により、衛生面への意識が高まり、「食」にまつわる行事の見直しが求められた。時代に応じた教育保育が求められる中、子どもに必要な経験ができるように日々、工夫しながら進めてきた。また、防犯面でも施設内への出入りについて、制限をすることで保護者の皆様が不便になったのではないかと課題も見え、葛藤しながらの保育となりました。